

# BIBLE + MESSAGE

あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。あなたがたの間で人の先に立ちたいと思う者はあなたがたのしもべになりなさい。(マタイ 20 章 26～27 節)

「他の誰よりも偉くなりたい！」と願っていた弟子たちに、イエス・キリストは上のことばを語られました。「偉い人」というと、人々の上に立って権力をふるう人のことをイメージされるかもしれませんが。しかしキリストは、他の人々に仕える「しもべ(奴隷)」になりなさいと教えられたのでした。

近年、ビジネスの世界で「サーバント・リーダーシップ」という言葉が取り上げられるようになりました。上に立つ人が権力によって下にいる人々を動かすのではなく、彼らに奉仕をすることをおして相手の信頼を得、それから相手を導いていく、というものです。実は「サーバント」とは、キリストが語られた「しもべ」のことなのです。

聖書は、イエス・キリストが神であられることを教えています。神である御方が、神としての在り方を捨てて人となり、人々のしもべとなって彼らを導いてくださったのです。



- ◆名鉄バス「日名町」前
- ◆愛知環状鉄道「北岡崎駅」から西へ徒歩3分
- ◆アピタ北岡崎店 筋向かい



スマホで上記のQRコードを読み込むと地図を表示できます。

【日曜学校】日曜：午前 10 時～ 10 時 45 分 【礼拝】日曜：午前 11 時～ 12 時半  
【午後の集会】日曜：午後 3 時～ 4 時半 【聖書研究会】木曜：19 時半～ 21 時

## 聖書を読んだ日本人

昨年12月、俳優の唐沢寿明さんが主演する映画「杉原千畝 ギハラチウネ」が公開されました。これは、実在する日本の外交官を題材にした映画です。杉原は第二次世界大戦中、ヨーロッパにあるリトアニア共和国の首都カナウスの日本領事館に務めていました。

1940年7月の早朝のこと、杉原は領事館の外がやけに騒がしいことに気がつきます。外を見てみると、ヨレヨレの服装をした多くの人たちが公邸の鉄柵に寄りかかって、何かを訴えているのです。少なくとも100人ほどの老若男女がいました。その多くはナチス・ドイツの占領下に置かれていたポーランドから逃亡してきたユダヤ

人でした。当時のリトアニアはソ連軍に占領されており、ソ連は各国にリトアニアの領事館・大使館の閉鎖を求めています。しかし日本領事館はまだ業務を続けていたので、難民が殺到したのです。彼らの願いは、アメリカや南米へ移住するため、ソ連・日本を通過するためのビザを発給してもらおうことでした。ナチスから逃れる道はシベリアから日本を経由する道しか残っていなかったからです。

杉原は彼らと話し合い、できるだけ協力したいと願いますが、数千人分のビザが必要です。数人であれば領事の権限で発行できますが、これだけ大勢になると本国の許可が必要となります。杉原は

早速、外務省に問い合わせますが、許可はおりません。ビザを出さなければ、ユダヤ難民の運命は決まってしまう。杉原は苦しみ悩みましたが「ビザを出さなかったら神に背くことになる。私は自分の責任で明日からビザを発行する」と、あえて本国の命令に反する決断をしたのでした。

このようにして杉原は領事館が閉鎖されるまで、2139枚ものビザを書き続けました。これによって救われたユダヤ人は6000人にも上るそうです。後に彼の勇氣ある行動が新聞やテレビで取り上げられるようになるのですが、彼は一言「当然のことをしたただけです」と謙遜に語りました。



杉原 千畝  
(すぎはら ちうね)  
1900年～1986年